京都・長岡京跡(2)

1 所在地　京都市南区久世東土川町
2 調査期間　一九八五年（昭60）九月～一九八六年三月
3 発掘機関　㈶京都市埋蔵文化財研究所
4 調査担当者　久世康博・上村和直
5 遺跡の種類　都城跡
6 遺跡の年代　八世紀末
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本調査は、西羽東師川改修工事にともなう第六次調査である。調査対象地は、長岡京左京南一条三坊十三町・二条三坊十六町に位置する。

（京都西南部）

今回の発掘調査で検出した長岡京期の主要遺構は、一条第二小路両側溝・南一条大路両側溝・南一条三坊十三町北辺及び南辺溝・二条三坊十六町北辺柵・掘立柱建物跡一棟などである。

南一条大路は、路面幅二三・三m（溝心々で約二四・八m）である。両側溝は幅約一・五m、深さ〇・三～〇・七mで、断面は逆台形を呈し、底部は平坦である。また、北側溝と十三町坊内溝との間（溝心々で約四・九m）の築地下に暗渠が造られている。

木簡は南一条大路北側溝から一点出土した。溝の埋土は大きく三層に分かれ、層序から短期間の堆積と考えられる。伴出した遺物は土師器・須恵器・人面墨書土器・人形・ヘラ状木製品などである。溝が埋めたてられた時期は土師器の形態・調整手法等から考え、八世紀末と推定できる。

8 木簡の釈文・内容

(1)　□□□我林延□虫□　(191)×17×9　081

墨痕は明瞭に残存している。上・下端が欠損し、左側面が墨書した後に削られているため、文字は中央部のものを除き、判読出来ない。

釈読にあっては、奈良国立文化財研究所の鬼頭清明・綾村宏両氏の御教示を得た。

（上村和直）